

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870101379
法人名	(株)クロス・サービス
事業所名	グループホームだんだん
所在地	愛媛県松山市朝生田町7丁目 1 3 - 2 8
自己評価作成日	平成21年10月10日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成21年10月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>・必ずご利用者に相談し、ご利用者と共に考え、生活を作りあげようとしている。</p> <p>・外出支援に力を入れている。個別の外出や行きたいところへの支援、ご利用者と相談しながら外出先も考えている。また、ご利用者が入居する前の“馴染み”も入居してから“馴染み”も大切に出来るように支援している。</p> <p>・スタッフはご利用者一人一人を大切にできるよう、前向きに取り組み、自分たちのケアの質を高めるために勉強会や研修会に参加し、お互いに研鑽できるようにしている。ご利用者がわかる、出来るケアを大切にしている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所では、利用者が、ご自宅で過ごすことのできる時間も大切にされており、現在、ご家族や訪問看護等の協力等も得ながら、介護度が重度の利用者の方が、週に2回ご自宅に戻ってご家族と過ごせるよう支援されている。近所の顔見知りになった方とおしゃべりされたり、姉妹で年賀状やお手紙等のやり取りをされている方も支援されている。</p> <p>調査訪問時、写真付きの「外出マップ」を利用して、利用者と一緒に外出先を決めて出かけておられた。「外出マップ」には、所要時間やトイレの様子、駐車場等の情報が示されており、行き先について利用者や職員がイメージがしやすくなっている。車で外出がむづかしい方は、戸外にちょっと出て外気に触れられるように支援されている。</p>

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 (株)クロスサービス

(ユニット名) グループホームだんだん

記入者(管理者)

氏名 上野 睦子

評価完了日

H.21年 10月 10日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 法人の運営方針をもとにスタッフ全員で“目指すグループホーム像”を思い描きながら作成した。半年に一度はミーティングなどで振り返り、理念からずれていないのか、自分たちのケアを振り返るようにしている。また、日々の申し送りやケアの振り返り、ミーティングなどでは、理念をもとにすりあわせるようにしている。理念をもとにコンプライアンスルール作りなどにも取り組んだ。 (外部評価) 「"ただいま" "おかえり"という声が響き 誰もがくつろげ 人と人との結びつきと支え合いある あったかだんだん」という理念のもと、職員一人ひとりが「利用者の言葉を聞き流さない」等の「マイルール」を掲げ、日々、利用者の生活を支えておられる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の行事には声をかけていただき、ご利用者と参加するようにしている。ご利用者と散歩にでると、近所のかたから声をかけていただいたり、その場で花をもらったりしている。市民大清掃に参加したり、近所の公園ではゴミ拾いや草引きなども行うようにしている。 (外部評価) 事業所が届けている「かわら版」を見て、校長先生がご自分で作ったオカリナを持ってホームに訪れてくれ、演奏を披露して下さった。次回は、小学校の生徒も一緒にオカリナ演奏を披露してくれることになっている。又、地域のグループホームの夏祭りやバザーにも出かけ交流されている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域向けに新聞を発刊し、ホームの取り組みや認知症についての記事を載せたりし、公民館や地域の家にポスティングするようにしている。また、運営推進会議をとうして、ケアのことや取り組みなどを地域の方に伝えるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 2ヶ月に1回開催している。全スタッフが持ち回りで参加できるようにし、ミーティングなどで会議の内容を報告し、スタッフ間でも会議内容が共有できるようにしている。地域の方からは、外出先の提案や、ホームの内覧会の提案など意見をいただいている。また、年に一度は地域の方、消防のかたと避難訓練を行い、ホームの防災について意見をもらっている。</p> <p>(外部評価) 併設施設（小規模多機能型居宅介護事業所）と合同で会議を開催されている。地域の方からホーム内の様子等を知ってもらうために「内覧会を行ってはどうか」と提案があり、話し合い、計画をすすめておられる。毎回、利用者も出席され、日頃の暮らしのことを話されたり、内覧会の話し合いの際には「みなでせんといかん。できることはするよ。」と述べられた。</p>	<p>現在、ご家族には、1年交替でグループホーム・小規模多機能ホームからそれぞれ1名ずつ出席していただいているが、管理者は、今後、より多くのご家族に働きかけ、ご家族を主体とした運営推進会議も開催したいと話しておられた。</p>
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 市からの実習や見学はいつでも受け入れをしている。また、代表者は日頃より市の担当者と連絡を取り協力関係を築いている。市の認知症などの研修講師などもしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議には、市や市社協、地域包括支援センターの担当者が出席されており、行政からの報告や研修の案内、時にはご自身が介護にかかわった経験談等をお話し下さることもある。「利用者が会議に参加できる環境はすごいですね」と会議への感想をいただいた。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 夜間の安全確保以外では玄関に施錠は行っていない。その際もご利用者は中から自由に鍵を開けることができる。年に1回は内部勉強会などでスタッフ全員で身体拘束についての理解を深めている。また、認知症の症状が重くても精神薬も使わなくても良いようにケアを工夫している。</p> <p>(外部評価) 居間の出入り口を通ると、チャイムが鳴るようになっている。職員は「利用者がそわそわしている」というようなサインを見逃さないように努め、利用者の思いで行動することを支えておられる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 年に1回内部勉強会にて、スタッフ全員で事例などを取り上げながら虐待について理解を深めている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 機会があれば、勉強会などに参加している。スタッフへの理解も深めていきたいが、制度の説明にとどまっている。必要だろうと予測される方には、地域包括支援センターなどに相談にいらっている。実際に後見人制度を利用しているご利用者もいらっしゃる。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 見学や訪問を重ねて、契約するようにしている。(緊急時はのぞく)また、隣の小規模からホームに入居されるかたは、小規模を利用いただいているときから、関係をつくり、契約時にはより疑問点や不安な点を聞き出せるよう工夫している。契約書、重要事項を説明しながら具体的にホームでの生活を説明するよう心がけている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 年に2回、家族会を開催しご家族の意見を伺う場を設けている。参加できないかたは、個別に伺うようにしている。また、運営推進会議などにも参加いただき、意見を頂くようにしている。年1回はホーム独自の家族アンケートを実施し、回答先を同法人の別の部署にするなど、ご家族が少しでも意見を言えるよう工夫している。また、契約書にも外部の苦情受け付け窓口(県、市、国保連など)を記入し説明するようにしている。 (外部評価) 事業所では、毎月、ご本人の日頃の様子を手書きしたお手紙に写真を添えてご家族へ送付されており、喜ばれている。又、職員がご自宅へ伺った際やお電話等、ご家族と個別にお話しする機会を大切にして、意見等を引き出せるよう努力されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回のミーティングには代表も参加し、スタッフからの意見を聞く場を作っている。その他にも、日々の申し送りやOJTチェック表、管理者・代表者との個別面談など、スタッフが意見を言える場面をつくっている。また、申し送りですた意見は次の日、その日から実践出来る物は実践するようにしている。	
			(外部評価) 「ケアの質向上委員会」では、現在、食事支援について話し合われており、利用者へのかかわり方や介助方法等について職員で活発に意見を出し合い、取り組みをすすめておられる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 各スタッフは、自己のケア計画を作り、自己課題に取り組み目標をもてるようにしている。年何回かは代表との面談があり、給与や働き方、悩んでいることなど意見交換できる場面がある。また、現場では、ケアの内容や申し送りの方法、記録時間の工夫など改善を図っている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) スタッフの段階に応じて、事業所内外の研修に参加できるような機会を設けている。研修計画を立てており、それに基づいて、スタッフ全員が何らかの研修に参加出来るようにしている。ホーム独自に勉強会などを行ったり、移乗方法や食事の介助などは現場で教えあったりできている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 法人外での研修に参加できるようにしている。また、同法人内でもスタッフ同士、リーダー同士、管理者同士が交流できるように研修の場を設けている。石井地区の他のグループホームとの交流も出来つつある。また、代表者はGH連絡協議会などで講師を務め、ネットワークづくりにもなっている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 管理者、スタッフは入居前より、自宅に何うなどし、ご本人と関係をつくるようにしている。入居前にはスタッフ全員にご本人の情報を提供し、出来る限りの環境をつくっていただけるようにしている(一対一の支援、家族の協力など)。また、隣の小規模からの入居の場合は、入居前後も、スタッフと関わりの持てるよう連携を取って支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 代表者、管理者が自宅に伺ったり、見学時に相談し話し合うようにしている。また、持ち込むものやホームでの生活の希望など具体的にご家族に問いかけながら、ホームの者だけで、サービスが開始しないよう配慮している。	
17		初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 電話での問い合わせなどが多いが、相手が困っていることを聞き出すようにしている。その際、ホームに空きがない場合には、他のサービスを紹介したりしている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ご利用者と何事(行事、習わし、日々の過ごし方など)も相談する事を大切にしている。料理や昔の話などご利用者から意図的に教えてもらう場面を作っている。また、ご利用者にとって、つらい時や悲しい時も一緒に悩んだり励ましたりできるように日々の関係づくりには留意している。	
19		本人と共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族の面会時には、一緒に食事を取ってもらいながら、介助をしてもらったり、車椅子を貸し出し、一緒に散歩に出かけてもらったり、行事などにご本人と参加して頂いたり、ご自宅での支援をお願いしたりしている。また、ご本人のケアで上手くいかないことなども相談し、アイデアをいただいたり、協力いただいたりしている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 自宅に帰る支援や、月命日には墓参りに出かけたたり、馴染みの場所での買物、生まれた場所への外出など支援している。誰でも面会に来れることを契約時にはご家族に伝えるようにしている。隣の小規模とのつながりも大切にしており、以前小規模を利用していた方が小規模のお風呂を借りたり、おかずをお裾分けしあったりしている。 (外部評価) 事業所では、利用者が、ご自宅で過ごすことのできる時間も大切にされており、現在、ご家族や訪問看護等の協力等も得ながら、介護度が重度の利用者の方が、週に2回ご自宅に戻ってご家族と過ごせるよう支援されている。近所の顔見知りになった方とおしゃべりされたり、姉妹で年賀状やお手紙等のやり取りをされている方も支援されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 誕生日や行事などご利用者同士が関われる場面作りを行っている。また、重度のかたも共に食事をしたり、他のご利用者に紹介したりしながら、ご利用者に知ってもらえるように支援している。ご利用者同士が名前呼び合ったり、外出時に誘い合ったり、食事が出来たと声を掛け合っている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約が終了しても1ヶ月後くらいには、管理者から手紙とご本人の写真を同封して郵送するようにしている。退居してからも、ご本人の死亡の連絡をもらったり、ご家族が近況報告に来てくれることもある。また、街で偶然に出会うときも必ず声を掛けてくださっている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の関わりの中から聞き出し把握するようにしている。またそのことを記録に残すようにしている。夕方の申し送り時には一日をチームで振り返り、聞き取ったご利用者の想いや希望の中で、すぐ実践できるものは明日のケアに繋げるようにしている。 (外部評価) 職員は、利用者とかかわる中で「料理カード」や「外出マップ」等の写真やイラストを使って、ご本人が決めたり選んだりできるような場面を作っておられ、意思表示がむづかしいような方も希望が出しやすくなるよう声かけ等、工夫されている。調査訪問時、外出マップを見ながら外出先を利用者の方と決めて、出かけておられた。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご本人、ご家族から聞き取るようにしている。また聞き取ったものは記録に残し、他のスタッフも共有できるように工夫している。パーソナルヒストリーやフェイスシートなどに落とし込んでいる。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ウィークリーアクションプランをもとに朝の申し送り時には出勤スタッフ全員でご利用者お一人お一人の心身の状態を確認しながら、一日の過ごし方などをチームで考え、夕の申し送り時には、その日一日のご利用者の状態と気づき、ケアの工夫などをチームで共有するようにし把握に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ご家族にはケアプランを見直す月に共にケアを振り返り、モニタリングをするようにしている。ご利用者によって、異なるが3ヶ月～1ヶ月にはスタッフ間でカンファレンスを行い、ご本人の生活をどう支えるのかチームで考えるようにしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>「ケアプラン立案シート」に、日々の記録からセンター方式の5つの視点に沿って抜き出し、ご家族のご意見等も含めて職員で話し合い、介護計画を立てておられる。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>記録用紙を工夫し、ケアプランに繋がる記録を残すようにしている。毎月の経過記録は日々の記録をまとめたものになっている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ご利用者の要望に応じて自宅に帰ったり、ご家族と相談して、自宅へ帰る時間をつくっている。また、以前暮っていた地区とつながりが持てるよう、敬老会に個別に参加したり、お墓参りを支援し、地域の方から声を掛けていただくこともある。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>近所の商店に買物に行ったり、地域の公園では、近所の方に声を掛けてもらったり、隣の理美容店で、髪染めやカット、際ぞりなどしていただいている。いずれの場面でもご利用者が自ら話しかけられたり、交流が持てるように配慮している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している</p>	<p>(自己評価) ホームに入居時にご家族と相談して、かかりつけ医を 決めている。ご利用者お一人お一人にあった医療を受 けれるように、往診、受診、連携をとるようにしてい る。月1回の受診のかたや2週間に1回の往診のかた、 毎週往診を受けられる方と様々である。</p> <p>(外部評価) 利用者の受診には、ご家族が付き添われるが、ご家族 の都合によっては職員が同行されている。インフルエ ンザの予防接種も、それぞれのかかりつけ医でされて いる。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している</p>	<p>(自己評価) 週1回は訪問看護師が訪問し、お一人お一人の健康状態を確認 している。また、訪問看護ステーションが隣接しているため、 何かあれば、内線やFAX、直接に報告に行き、相談し連携出 来るようにしている。また、退院カンファなどにも管理者と一 緒に参加してくれている。運営推進会議にも参加していただい ている。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) 入院時には、管理者が付き添い、病状や治療の計画などを家族 と共に聞き、ホームでの様子、認知症の状態などを医師、看護 師に伝えるようにしている。また、早期に退院出来るように、 看護師とも連携をとり、病状の経過、ホームでの介護方法を工 夫するようにしている。また、入院時には1週間に1回~2回 ほどはご本人に面会に行くように努めている。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 契約時にホームの方針として指針をご本人、ご家族に説明し、 同意を得るようにしている。また、病状にあわせて、どうして いくのがご家族と話し合うようにしている。早い段階やご家族 の思いのタイミングを図りながら、日常的にこうなった場合は こうするなど、ご家族には話すようにしている。ご家族の重度 化や終末期に向けての想いはミーティングなどでスタッフに伝 え、共有できるようにしている。</p> <p>(外部評価) 代表者は「ご本人と共に、命と最期まで付き合うこと が看取りである」と考えておられ、ご本人やご家族 等、医師や看護師と話し合いを重ねながら、終末期の あり方をご本人中心に検討していかれている。長年事 業所で暮らしておられた利用者の状態がよくなって入 院となったが、ご本人が「帰りたい」と何度も訴えら れ、皆で相談して、長年過ごした場所と職員がいる事 業所に戻り、看取りを支援されたというような事例も ある。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 年に1回は救命講習(消防署より)を受ける機会をスタッフに設けている。また、スタッフ間で講習内容を共有できるよう勉強会などを開いている。その際には、緊急時の連絡方法や日常のバイタルの測定方法、ご利用者に応じた緊急対応などもつたえるようにしている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年4回避難訓練を実施している。そのうち1回は消防署立ち会いのもと、行うようにし、実際に通報したり、消化器の使い方など指導してもらうようにしている。新人スタッフには消化器の場所や避難経路など、勤務する時間帯に応じて伝えるようにしている。また、訓練後にはスタッフで気づきや必要なものなど意見交換をし、改善につとめている。ミーティングで共有している。 (外部評価) 利用者個々に「避難カード」を作成されており、災害時は首にかけられるように準備されている。カードには、お名前や連絡先、避難場所等が書かれてあった。地域の方からは、「何かあったらほっとかんよ。」という声をいただいております。事業所の避難訓練にも参加されている。	さらに、今後も併設事業所(小規模多機能型居宅介護事業所)との助け合いや、地域の方達にどのようなことを協力いただくか具体的に相談され、さらなる協力体制を築いていかれてほしい。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 勉強会やミーティングなどで、理念やコンプライアンスルールなど議題にあげ、人格や尊重について学ぶ機会をもっている。現場では、排泄時の声のかけ方や誘導の方法など見直すようにしている。また、管理者が声のかけ方など、その場で厳しく指導するようにしている。また、記録は事務所に保管し、持ち出さないを基本に、外部の方が訪問するときには管理者がつきそうなど、プライバシーについても留意している。 (外部評価) 事業所では利用者主体の生活を支えておられ、意思表示のむつかしいような方もご本人の希望を引き出せるようカードを使ったり、言葉かけや対応に努めておられる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ご利用者によってコミュニケーションの方法を変えて想いを聞き出せるように工夫している。筆談や料理カード、外出マップなど、ご利用者にわかりやすく提案、相談、選択できることを大切に取り組んでいる。また、スタッフ間でご利用者の情報は共有しつつ、それぞれの役割をもってご利用者に関わるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その日の体調や様子、希望を朝の申し送り時に確認し、ご利用者へ働きかけるようにしている。また、何をすることもご利用者と相談するようにし、提案をしている。買物や外出、入浴など、なるべくご本人の希望に添えるようにしている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 業務改善計画に上げ、衣類の保全やほつれのないように取り組んだ。また、外出時には共に服やバッグを選んだり、ご利用者の希望に合わせて洗面台に置いておくものを変えている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 日によるが、共に食材を見ながらメニューを決めることもある。食事作りはなるべくご利用者も参加できるように声をかけている。盛りつけ、片付けは各ご利用者できることは自分でしていただけるよう支援している。バイキング方式や外での食事、お弁当、行事食、パン食など工夫している。 (外部評価) 調査訪問時、利用者がホットプレートを囲み、手作りの餃子を焼いておられた。利用者同士でお互いに声を掛け合い、焼け具合を確かめて、職員に味見をお願いされていた。食事の際には、ご自分のご飯をよそい、お盆に乗せて運ばれたり、下膳や洗い物もされていた。ミキサー食の方の食事は、食べる直前にミキサーにかけ、できるだけおいしく食べられるよう配慮をされている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一日の食事量や水分量は申し送り時にスタッフ全員で確認し、もれのないようにしている。少ない方へは、ご本人の一日通してのタイミングをみつつすすめるようにしている。また、月1回は体重測定を行い、前月と比べての増減をみるようにしている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) フロアの洗面台に歯ブラシ、コップを各自置いており、食後にご利用者に応じて声かけ、促し、介助するようにしている。また、ご利用者によってはタイミングを見つつ促すようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価) 申し送り時に排泄チェック表をチームで確認するようにしている。尿漏れが続いていれば、原因を探り尿測をしたり、オムツのあて方を工夫したりしている。また、御利用者の状態や状況にあわせて布パンツやオムツ、紙パンツなど利用している。導尿が必要だった方もトイレでの排泄や水分量を見直すことで、導尿回数がへっている方もいる。</p> <p>(外部評価) 排泄支援時、職員は、ご本人の不安や不快が軽減されるような介助ができるよう配慮されている。又、全介助の利用者もトイレで排泄できるよう2名の職員が付き添い、安全に手早く支援できるよう努めておられる。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 同法人内で研修している、ケア向上委員で取り組みにあげ、スタッフ全員で自然排便できるよう促している。食物の見直しや水分(量や内容なども)、果物など工夫している。また、各御利用者にあわせて出やすい時間やタイミングを見るようにしたり、腹部マッサージを行ったりしている。</p>	
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価) 入浴剤を使用したり、時には温泉などに出かけることもある。入浴の回数や時間帯はご本人にあわせており、各御利用者によって異なっている。</p> <p>(外部評価) 夜9時まで、その日のご本人のご希望や状態により、入浴できるようになっている。「入浴剤使われますか」と書かれた紙が貼られており、現在ラベンダーの香りの入浴剤が人気のようなのである。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 睡眠パターンを記録に残し、申し送り時にチームで確認するようにしている。夜間睡眠を促すためにも日中の活動を働きかけるように心がけている。フロアにコタツやソファ、畳など、ちょっと休める場面をつくるようにもし、御利用者にあわせて休めるようにしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 受診や往診時に薬の変更がないか、前回分と確認している。変更時には医師より説明を受け、処方箋をスタッフ間で確認するようにしている。薬の変更後は特に御利用者に変化がないか確認するようにしている。御利用者が自分で服薬できるように工夫している。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 御利用者と共に家事などをする中で、得意・苦手を見極めながら支援している。苦手だからしないというわけではなく、御利用者の出来るように環境や声かけなど工夫している。居室の掃除や調理、洗濯物など各御利用者により役割がある。ホームの外でも中でも楽しめるように御利用者に相談しながら日々の生活をしている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ほぼ毎日のように誰かがどこかに外出している。行き先も御利用者と共に決めている。年に1回はみんなで日帰り温泉旅行に出かけ入浴や宴会などを楽しんでいる。隣の小規模とも協力し、共に外出に出かけたり、ドライブにつれていってもらったりしている。また、運営推進会議にて地域の方から外出先の提案を頂くこともある。生まれた土地に行ったり、知人と選挙にいたり、法事に行ったりご家族とも連携してご本人の外出を支援している。	
			(外部評価) 「外出マップ」には、所要時間やトイレの様子、駐車場等の情報が示してあり、行き先について利用者や職員がイメージがしやすくなっている。車での外出がむづかしい方は、戸外にちょっと出て外気に触れられるように支援されている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご本人の希望やできることに応じて、ご家族とも相談しながら支援している。買物時にはご本人が支払いできるように支援したり、溜まった小銭を共に数え両替したりしている。また、御利用者に必要なものはご家族に相談して購入してもらうようにしている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 季節にあわせた挨拶状を書いたり、絵はがき作りを取り組みにあげたりし、手紙を書く機会を意図的につくっている。ご家族と電話で話すときにはご本人にかわったり、郵便物がある時はご本人に手紙を書いてもらったりしている。また、小包が届いたときにもお礼を兼ねて電話をしたり、来所時に不在だったときなども連絡をするようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>共に過す中で空調や臭い、光、音など調整するようにしている。また、特に血行が悪い方には直接肌に触って確認するようにしている。庭に共にでて花を摘んだり、玄関の飾り花は御利用者と共にかざるようにしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>調査訪問時、居間では、利用者と職員でテーブルを囲み、お誕生日会の飾りを作っておられる方や食材の下ごしらえをされている方が見られた。又、午後から洗濯物を畳んでいる方もあった。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>フロア内、玄関先と様々な所にイスを置き、御利用者がその時々で腰掛けれるようにしている。また、自分の居場所が決まっている方には自然に居場所にすわるように配慮している。御利用者同士で居室を行き来したり、「あっちに行こう」と誘い合ったりしている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>入居前にご家族、ご本人に相談しながら居室の物品を持ち込んでもらうようにしている。ケースによってはスタッフと共に入居準備をした御利用者もいる。入居後も必要な物品があれば、家に取りに帰ったり、ご家族やスタッフと共に買いに行かれる方もいる。皆さん「ちょっと帰ってこよわい。」と居室に戻られている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居室に、お孫さんやひ孫さんの写真を飾っておられる方もある。母の日に職員から贈られた感謝の言葉が書かれたカードを、大切に飾っておられる方もあった。夕食後、早めに居室に戻られ、日記を書いたりテレビを見る方もあり、ひとりの時間も大切でできるように支えておられる。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>夜間はトイレの電気を付けておく、トイレ、浴室、居室にはプレートを配置している。こじんまりとした空間になっているので、スタッフが御利用者の認知状態にあわせて自然に支援出来るようにしている。</p>	